

田丸城跡

三重県指定文化財・史跡
続・日本百名城



築170年以上の姿が
今もそのまま残る

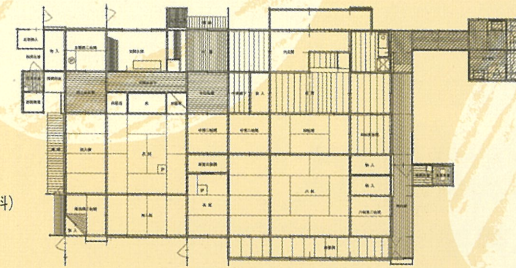
玄甲舎

度会郡玉城町佐田151-22

入館料 200円
(高校生以下・障がい者手帳をお持ちの方 無料)

休館日 毎週火曜日、
年末年始(12月29日～1月3日)

☎ 0596-58-8050 (玉城町生涯現役促進協議会内)



弘化4年(1847年)に田丸城の家
老であった金森得水が建てた茶室
兼別邸で、数寄屋造りの貴重な建物が
当時のままで残っています。表千
家茶道で免許皆伝を受けた得水は、
しばしばここで茶会を催し、士族を
はじめ当代一流の各界名士を招き、
交遊を深めたと伝えられています。

玉城語り部会

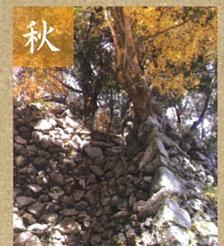
要予約

玉城町を中心にガイドを行っている「玉城語り部会」は、歴史、街道、自然など、玉城の魅力を存分に案内してくれます。事前に申し込みを行い、より詳しい説明を聞きながら、玉城の魅力に触れてみてください。

※少人数での申込また会の都合によりお受けできない場合があります。

案内可能時間／9:00～17:00 案内方法／原則徒歩
申込方法／事務局へ電話またはFAX
問い合わせ／玉城町教育委員会
TEL.0596-58-8212 FAX.0596-58-7588

田丸城跡の四季



アクセス



車でお越しの場合

※所要時間は、渋滞等が無い場合の平均的なものです。

名古屋JCT	東名阪自動車道	亀山JCT	伊勢JCT	伊勢西JCT
約40分	約40分	約10分	約35分	約10分
名神高速道路	新名神高速道路	東名阪自動車道	伊勢自動車道	伊勢自動車道
約20分	約40分	約10分	約10分	約10分
京都南IC	津JCT	津JCT	伊勢JCT	伊勢西JCT
約30分	約30分	約90分	約90分	約90分
松原JCT	西名阪自動車道	名阪国道		
約30分	約30分	約90分		

各地から玉城町へ(時間は玉城町役場までの目安です)

伊勢神宮(外宮)から	伊勢神宮(内宮)から	松坂城跡から
約30分 (国道37号線→13号線)	約40分 (国道23号線→国道37号線→13号線)	約40分 (国道42号線→国道37号線→サニーロード)

電車でお越しの場合

※所要時間は、目安です。

近鉄特急	JR紀勢線	JR参宮線	JR参宮線	JR参宮線	JR参宮線	JR参宮線	JR参宮線
約1時間10分	約10分	約3分	約4分	約4分	約3分	約4分	約4分
近鉄特急	JR快速みえ	JR快速みえ	JR快速みえ	JR快速みえ	JR快速みえ	JR快速みえ	JR快速みえ
約1時間10分	約10分	約7分	約12分	約12分	約12分	約12分	約12分
京都	近鉄特急	近鉄特急	近鉄特急	近鉄特急	近鉄特急	近鉄特急	近鉄特急
約2時間	約2時間	約2時間	約2時間	約2時間	約2時間	約2時間	約2時間
難波	近鉄特急	近鉄特急	近鉄特急	近鉄特急	近鉄特急	近鉄特急	近鉄特急
約1時間40分	約1時間40分	約1時間40分	約1時間40分	約1時間40分	約1時間40分	約1時間40分	約1時間40分

バスでお越しの場合

※所要時間は、目安です。

伊勢市駅前	三重交通玉城線	田丸駅前	三重交通玉城線	田丸城跡(玉城町役場)
約25分	約25分	約3分	約3分	約3分

問い合わせ

玉城町教育委員会(村山龍平記念館内)

〒519-0415 三重県度会郡玉城町田丸114-1
TEL 0596-58-8212 FAX 0596-58-7588

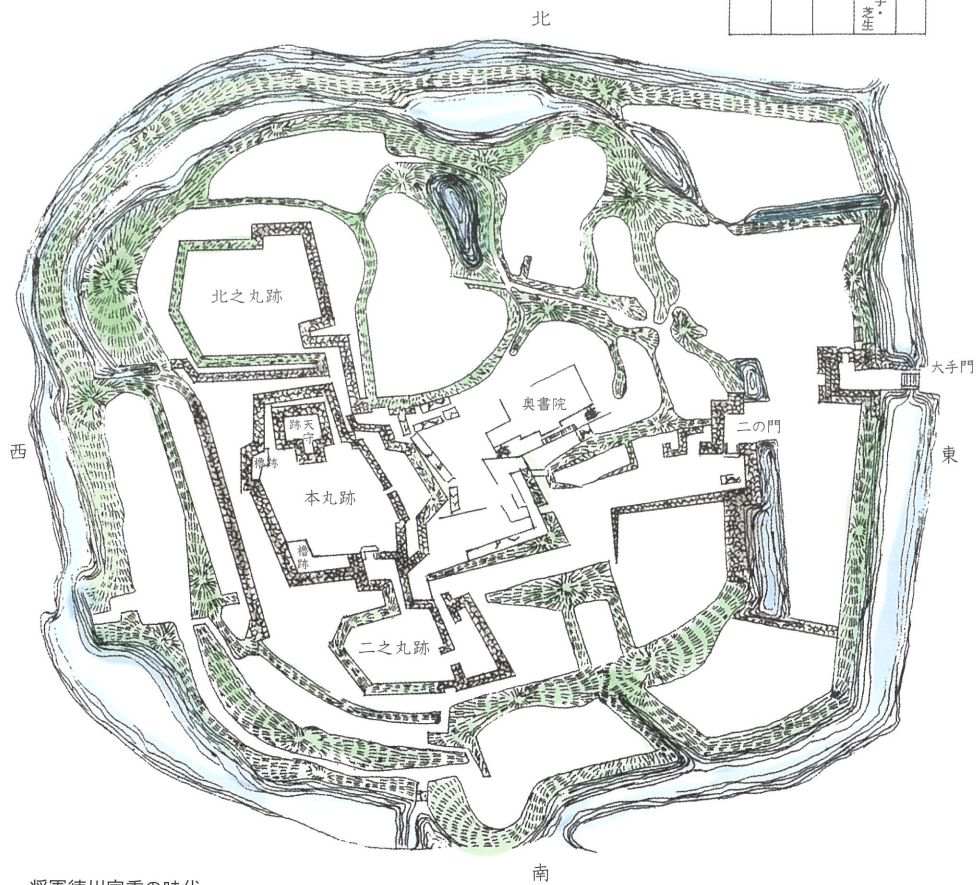
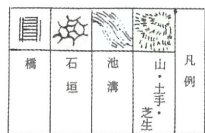
玉城町
<https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/>



※掲載の内容は令和4年4月現在のものです。 ※本誌の記事・地図の無断転載を禁じます。

田丸城寶暦年間之圖

中村寛夫氏所蔵 縮寫(模寫)



將軍徳川家重の時代
(西暦1751-1763年)



田丸城大手門入口(明治39年10月)



大手口内側北より見る(昭和11年 大西春海蔵)

信雄が城に表した策略

信雄は、田丸城の改修を進め、天正3年(1575年)に3層の天守閣を掲げて築かれた田丸城に入城しました。田丸城の築城ぶりは信雄の力量が表れており、本丸への出入り口は直線的にのぼらせず途中で直角に曲がった形になっています。角度を設けることで城の防御側は相手が横を



田丸城の主要な出入り口は三つあり、すべて枡形をしていました。三の丸も大手口も二の門口も門内で通路が直角に折れ曲がっていて、内枡形に近い形です。



大手は城の東辺の中央に開かれていました。大手口は内枡形で、攻め手が容易に入って来られないような造りをしていました。当時は木橋でしたが、現在はコンクリート橋となっています。

向いたところを攻撃(横矢)でき、防御と攻撃を兼ね備えた城であった「枡形」の原型とも感じ取れます。しかし残念ながら、天正8年(1580年)金奉行玄智が金銀を盗んで火薬庫に放火、田丸城天守をはじめ主要部は焼失しました。その後、信雄は松ヶ島城(松阪市)へ移りました。

戦国時代に多くの武将たちが居城した、
南伊勢随一の名城

田丸城跡

続・日本百名城
三重県指定文化財・史跡



田丸城の歴史

北畠氏の拠点として

田丸城(玉丸城)は南北朝時代の延元元年(1336年)、北畠親房が南朝側の拠点として砦を築いたことに始まります。その後、北朝側に攻め落とされますが、北畠氏の城として田丸(玉丸)氏等その一族が居城しました。

織田信雄の城となる

戦国時代、織田信長が軍事力による天下統一への歩を進めてゆき、永禄10年(1567年)から3か年にわたる伊勢進攻は、北畠氏をはじめとする伊勢国の支配構造を覆しました。永禄12年(1569年)に信長は次男茶筌丸(のち具豊、信意、信勝、信雄と改名する)を北畠氏の養子とすることとで和睦を図り、伊勢国の攻略に至ったのです。



西暦	1761	1740	1737	1726	1706	1677	1649	1649	1626	1624-1645	1619	1617	1608	1600	1600	1598	1590	1584	1580	1576	1575	1571	1527	1521	1478	1450	1342	1336	西暦
年号	宝暦11	元文5	元文2	享保11	宝永3	延宝5	慶安2	慶安2	寛永3	寛永年間	元和5	元和3	慶長13	慶長5	慶長5	慶長3	天正18	天正12	天正8	天正4	天正3	元龜2	大永7	永正18	文明10	宝徳2	興國3	延元1	年号
城主等／内容	久野俊純／ 内曲輪の石垣・堀端の石垣を補修 12月	久野俊純／ 4月 地震が度々ゆれ石垣崩れる	久野俊純／ 地震で本丸石垣2間巾5尺崩れる 10月	久野俊純／ 家督を相続 田丸城主となる (5代)久野俊純／	(4代)久野俊正／ 家督を相続 田丸城主となる	久野宗俊／ 三の丸増築	久野宗俊／ 家督を相続 田丸城主となる (3代)久野宗俊／	久野宗晴／ 1月13日 雨風で天守が崩落	(2代)久野宗晴／ 1月 家督を相続 田丸城主となる	久野氏家臣を城外に移す	(初代)久野宗成／ 紀州藩領となり家老久野氏城主	藤堂高虎／ 伊勢田丸領を増増され 田丸城支配	稲葉道通／ 田丸城主となる	関一政／ 田丸城支配	田丸城支配	木下重吉／ 田丸城支配	稲葉重通／ 直息は直昌と改名して東北地方へ 移り、稲葉重通が城代となる 文禄3年伊勢検地奉行を勤める	田丸直息／ 岩出城へ退いたが田丸城主に 返り咲く	織田信雄／ 田丸城炎上、 信雄松ヶ島城に移る	北畠信雄／ 三瀬の館や田丸城で 北畠一族を謀殺、織田姓にもどる	北畠(織田)信雄／ 田丸城を改築	田丸忠弘(直息)／ 後に信雄に田丸城をゆずる	田丸国忠／ 後に左中将具忠	田丸親忠／ 龍山の代替り安堵状、 田丸合戦で死す	田丸政勝／ 国司政郷の庶子、国司材親の後見	愛洲忠行／ 神領奉行田丸城主	8月 玉丸城陥落	北畠親房・顕信／ 玉丸山に南朝義軍たてこもる	城主等／内容
											久野氏が城主に			関ヶ原の戦い							天守が築かれる					田丸城のはじまり			

田丸城の歴代城主と
できごとをみよう！



田丸城跡を歩く

田丸城跡は、歴史あふれる史跡とともに、春は桜や梅、夏は大賀蓮、秋には紅葉など、四季折々の自然が楽しめます。遊歩道を散歩したり、景色を眺めたり、思い思いに散策してみよう。



① 天守跡

天守台は本丸の北端部に位置しています。内部に穴蔵をもつ古い形式のもので、南側には付櫓が付属していました。天守台は高さ約4mで、東西約17m×南北約18mのほぼ正方形に近い平面をしています。付櫓台の石垣と石段は、近世以降の改変の手が加えられています。



② 富士見門

田丸城が廃城になった明治維新の当時、城内には8つの門が残されていました。富士見門は江戸中期に建てられたもので、現在も当時の原型をとどめています。かつては、門の両側に長屋が付いていたことから長屋門ともよばれました。



③石垣 (本丸虎口)

他の石垣とは異なり、この場所には整えられた石垣が見られます。



4 跡門手揃か ら め て も ん あ と

この場所は土塁の外柵形が残っており、
中世の城の名残が見られます。



季節の風景

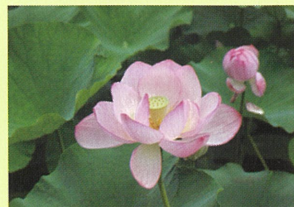


桜 (見頃 3月下旬～4月上旬)

約500本の桜が城跡内に咲き誇ります。石垣と桜の風情溢れる景色が広がり、毎年たくさんの花見客で賑わいます。

ライトアップ。

点灯時期 桜の開花時期
点灯時間 日没～22:00
大手門橋から天守跡にかけて桜のライトアップが行われ、夜桜も楽しめます。



大賀蓮 (見頃 7月~8月)

淡いピンクの花が内堀いっぱい
に咲きます。花が開花する午
前中が見頃です。



梅 (見頃 2月~3月)

二の丸跡付近の遊歩道沿いに梅林が広がっています。

田丸直昌、稲葉氏の入城

天正10年（1582年）本能寺の変以降、織田信長の後継が協議されるなか、田丸直息（のちの直昌）らは信雄に叛いて羽柴秀吉に味方し、蒲生氏郷とともに松ヶ島城を攻略します。天正12年（1584年）氏郷は伊勢の領主となって松ヶ島城へ移り、直昌は田丸城主に返り咲きました。当時直昌が焼失した城郭建造物をどの程度まで修築したか、これを明らかにする文献・資料は残っていません。

天正18年（1590年）直昌は秀吉の命を受け、氏郷とともに東北地方へ移ります。その後の田丸城は稲葉重通が城代となり、慶長5年（1600年）関ヶ原合戦の戦功によ

田丸直昌、稲葉氏の入城

天正10年(1582年)本能寺の變

「中世の古城」現在へ

江戸時代を通して、田丸城は老朽

化はしつつも本丸、天守をはじめ稲葉氏が再建した郭建造物が残っていたと推測されていますが、久野氏時代の田丸城は中世の古城と呼ばれ長年の雨風や地震等によって石垣の各所が傷み、あるいは崩落しており3代、5代、8代と幾度か修復工事を行ったことがわかっています。2代宗晴の頃には「天守三重・八間四方、高さ九間、破損。慶安二年正月一三日、夜半風雨有之、御城天守落云々」と記述が残されています。これは、稲葉道通によって修築された天守であれば約50年を経過し老朽化が進んでいたところを慶安2年（1649年）



の激しい雨風に見舞われ、天守が崩落したと考えられます。

明治4年(1871年)、田丸城の城門をはじめ全ての城郭建造物の解体・処分に至り、現在は石垣や堀、一部建物を残すのみとなっています。

1953	1928	1893	1871	1869	1868	1850	1850	1843	1833	1828	1823	1811	1773	1765	西暦
昭和28	昭和3	明治26	明治4	明治2	明治1	嘉永3	嘉永3	天保14	天保4	文政11	文政6	文化8	安永2	明和2	年号
三重県史跡に指定	城山払い下げをうけて 田丸町有地となる	12月 参宮鉄道が開通、城山南部欠ける	2月 城内建物取払い	6月 田丸城は紀州藩に返上を命ぜられて	久野宗照 家督を相続 田丸城主となる	久野純固 11月 城内に鎮守稻荷社を造営	久野純固 6月 西洋流大砲4門を新調	久野純固 9月 火薬製法を始める	久野純固 2月 城内鉄砲場を始める	久野純固 御殿を普請する	久野純固 家督を相続 田丸城主となる	久野純固 家督を相続 田丸城主となる	久野純固 家督を相続 田丸城主となる	久野純固 5月 総御門の普請が完成	城主等 / 内容
六八〇年以上の歴史がある！ 外国船が日本近海に度々現れる															

外国船が日本近海に度々現れる





4

伊勢から熊野への出発点 熊野街道 道標

初瀬街道と熊野街道の合流する地点には、道標が建てられていました。伊勢から熊野三山、西国巡礼への旅はここ田丸が出立地です。

度会郡玉城町田丸

2004年に熊野古道が
世界文化遺産に登録



元信長の配下であった稲葉道通が慶長5年(1600年)に田丸城主となり、慶長13年岩出城の正覚寺を田丸に移築したことに始まります。その長子三郎の墓が祀られています。

3

稲葉道通が建立 西光寺

度会郡玉城町田丸59



北畠氏が浄土真宗に深く帰依 玄徳寺

度会郡玉城町田丸84



戦国時代の天文年間(1532-54)に、北畠氏出身の教誓という人物が入寺したのがはじまりといわれています。

← 次のページへ

室町時代の田丸城主・愛洲氏ゆかりの寺院で、のち岩出城から移り城主となった稲葉道通の五輪塔が建てられています。境内のイチョウも美しいです。



稲葉道通の碑が残る 三縁寺

度会郡玉城町田丸325

6

久野氏歴代城主にまつわる 田丸城主久野家菩提寺 大得寺

度会郡玉城町田丸149



元和5年(1619年)、紀州藩田丸城主であった久野家歴代城主の墓碑が建てられています。



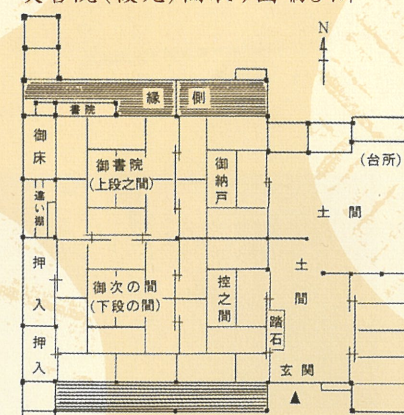
歴史が残るまち 玉城町

田丸城ゆかりの地

田丸城跡の周辺には、お城の歴史に深く関わりのあるスポットが数多くあります。そんなゆかりの地を巡って、現代まで受け継がれてきた長い歴史を感じてみましょう。

旧三の丸御殿・奥書院

奥書院(復元)間取り図 約39坪



度会郡玉城町田丸114-1

見学は ☎ 0596-58-8212

要予約 玉城町教育委員会(村山龍平記念館内)



久野家家紋 瓜に三つ巴
書院内には、長押の釘を隠すための家紋が見られます。



下段の間から上段の間を見た様子。内部書院は、江戸時代中期の素朴で勇壮な武家書院様式がそのままに保存され、復元されています。

1 田丸城主久野氏の居間・寝所の間
旧三の丸御殿 奥書院
江戸時代二百数十年間に渡り田丸を支配した久野家は、代々紀州藩の家老職にあったため、田丸には城代家老がおかれ、一代のうち数度入城するに過ぎませんでした。この御書院は、久野城主が田丸入城の際、居間、寝所の間として使われたものです。

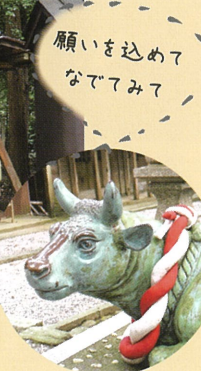
2 学問の神・天満天神を祀る神社 田丸神社

度会郡玉城町下田辺1041

元禄15年(1702年)2月、京都北野天満宮より菅原道真公の御分霊を勧請され天神社としてお祀りされたのが始まりとされています。それ以前は榎の大木を御神体とする天神様に降雨止雨を祈願する農耕の神でもありました。現在は学業成就、厄災除、病氣平癒などを願って多くの人が訪れ、春には獅子舞、秋の会式には御神輿が出ます。



天神様の使いといわれる本殿前の「なで牛」をなでると、願いが成就するといわれています。



続日本100名城選定記念 田丸城跡 登城記念証

平成29年4月6日認定



上空からの田丸城跡

《山折り》

《山折り》

スタンプ台紙



登城日 2022年 7月 31日

ようこそ田丸城跡へ

登城の思い出に感じたことを書き留めてください。

田丸城跡 DATA

- 昭和28(1953)年5月7日 三重県指定史跡に登録
- 築城当時の名称：玉丸城 ●築城年代：延元元(1336)年
- 築城者：北畠親房

田丸城の歴史

自然石をそのまま積み上げて築かれた、美しい野面積みの石垣が特徴的な田丸城。この田丸城が築かれたのは延元元(1336)年のこと。南北朝時代の公卿・北畠親房が南朝方の拠点にするために田辺の丘に砦を築いたのが始まりです。

戦国時代には、織田信長が伊勢進攻のため、二男信雄を北畠家の婿養子に入れ、家督を継がせました。城主となった信雄は、天正3(1575)年に天守を築き居城とすると、翌年に信長の命を受け北畠一族を討ち滅ぼし、再び織田姓に戻ります。しかしながら、天守は築城から5年後の天正8(1580)年に炎上し、信雄は松ヶ島城(現在の松阪市)に移りました。

その後、城主は田丸氏や稲葉氏に移り、元和5(1619)年には紀州藩領となり家老久野氏が明治維新までの8代250年間にわたり支配しました。

おすすめスポット



当時の面影を残す野面積みの石垣



玉城町教育委員会 生涯教育課 (村山龍平記念館内)

〒519-0415 度会郡玉城町田丸 114-1 ☎0596-58-8212

入館時間 月～金 8:30～19:00 (村山龍平記念館の閉館時間は17:00)
土・日・祝 8:30～17:00

休館 年末年始(12月29日～1月3日)

アクセス 伊勢自動車道 玉城インターより車で5分、JR 参宮線 田丸駅より徒歩5分

城之介（じょうのすけ）

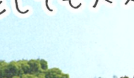


歴史の息吹を感じながら巡ろう！



玉夢(たむ)

としても人気！



かつて三層の天守があった天守跡



中学校前から見る石垣

移筆_レ大富十見門

城主が居間に利用した奥書院



緑豊かな遊歩道



五穀豊穰、商売繁盛の
ご利益がある城山稻荷神社



城山の中央部 本丸虎口



整備された搦手口



7~8月上旬が見頃の大賀ハス



本丸を開う石垣



11 二の丸虎口跡



大手門跡の桜 3月下旬~4月中旬はライトアップ



天守跡からは玉城町が
一望できます。



冬の早朝、東の方角に富士山が見えることもあります。

玉城町の風景